

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	大阪大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	人間科学データによる包括的専門教育		
主たる研究科・専攻名	人間科学研究科人間科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 川端 亮		

[教育プログラムの概要]

本研究科は創設以来、「学際性」、「文理融合」、「総合的な人間理解」を理念として掲げ、現実の人間と人間の社会を研究対象に、実験、観察、社会調査、フィールドワーク、アクションリサーチ等の経験的手法を用いて、実証的、実践的、臨床的な教育研究活動を行ってきた。

人間科学のための主要な研究方法の1つに数量的データの収集と解析があるが、近年、IT技術の発達とともにデータ分析法が急速に発展し、研究に必要な能力も多様化、高度化して、専門的な対応を迫られている。また、多くの分野で研究の国際化が進み、先端の技法のみならず、社会調査倫理の遵守やデータの公開と二次分析を含む、量的研究法の新しい国際標準を修得する必要性が高まっている。他方、大学院重点化により、学部レベルの人間科学教育との連続性を欠いた他大学出身の大学院生が増加し、個別の分野で対応することがますます困難で非効率となってきた。

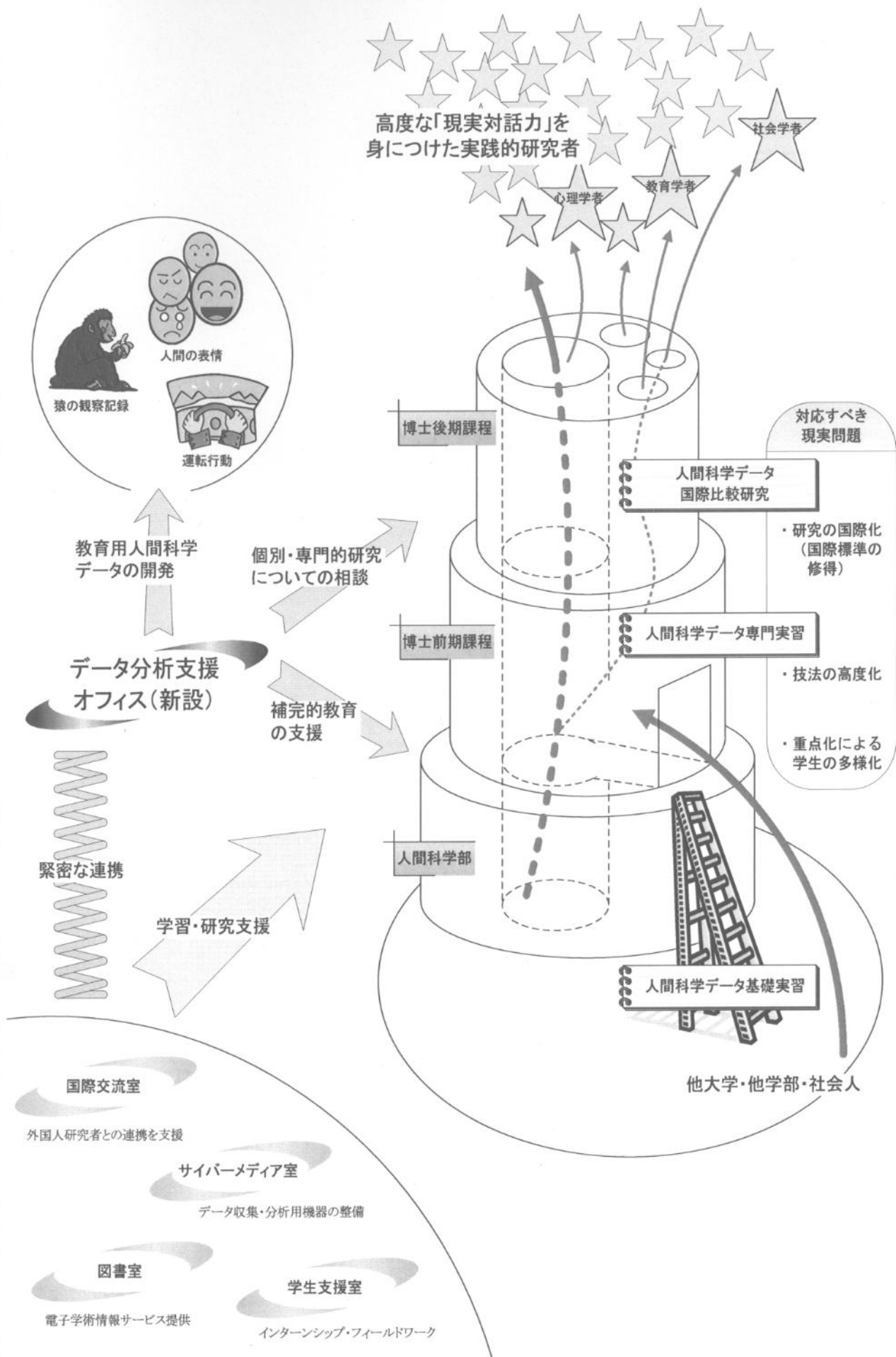
本プログラムは、研究科が蓄積してきた多様な人間科学データを活用して、これらの問題に包括的に対応しようとするものである。本研究科には、行動学、教育学、社会学、人間学、共生学の5つの学系が、さまざまな領域で収集してきた膨大なデータがある。それは、交通場面や音環境の実験データ、人々の社会的属性や意識に関する社会調査データ、地域の学校や子どもの教育学的データ、ニホンザルの生態観察による行動学的データ、顔面の表情を数値化した映像データなど多岐にわたっている。研究科に蓄積されているこれらのデータを教育に生かし、多分野を覆う豊富な教育スタッフと部内の教育支援インフラを活用して、以下の①②③の新設科目による教育プログラムと④の学習・研究支援プログラムを柱とする大学院教育プログラムを実施する。

- ① 他大学出身の学生のニーズに見合った基礎的なデータ分析科目の設置
- ② 高度に専門化された先端的な分析方法に対応した科目の設置
- ③ 研究倫理を含む国際標準に合致した国際比較データ分析への対応
- ④ 「データ分析支援オフィス」を中心とした学生の学習と研究の支援

本研究科には、「サイバーメディア室」、「図書室」、「学生支援室」、「国際交流室」などの組織があり、すでにさまざまな形で学生の学習活動を支援している。新たに設置する「データ分析支援オフィス」は、各室で行っている事業を本プログラムに有機的に接合し、学生の補完的な学習や自主的・自立的な研究をより効果的に支援していく。さらに、このオフィスでは、①から③の教育プログラムに即して、人間科学データによる教育用コンテンツの開発を行う。

本プログラムが目指すのは、人間科学データによる基礎から先端までの学習を通して、人間と人間の営む社会を数量的データから洞察し、創造的なアイデアをもって現実に関わっていける、高度な「現実対話力」を身につけた実践的研究者の養成である。その目的に向けて、研究科の教育を効率的に組織展開し、より一層活性化していくための包括的な専門教育プログラムである。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



大阪大学：人間科学データによる包括的専門教育

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「学際性」、「文理融合」、「総合的な人間理解」を理念として掲げ、論文指導の体系化や、全教員がオフィス・アワーを設定し、複数指導体制による組織的かつきめ細かい指導体制が整備されている点は評価できるが、ファカルティ・ディベロップメントについては、研究科・専攻で推進するための計画の具体化が望まれる。

教育プログラムについては、これまで蓄積してきた人間科学データを用い、データ分析の専門家を養成するという目的に沿って、「データ分析支援オフィス」の新設など、学生の自主的・自立的な研究を効果的・組織的に支援していくための具体的な計画が提案されており、今後の成果が期待できるが、このプログラムを通して、大学院生にどのような分野の応用可能な能力を身につけさせるのかなどの面で、カリキュラムの更なる工夫が望まれる。